

## 私のカルテ

No. 390

## 喫煙とCOPDについて

津島市民病院  
呼吸器内科医師たにもと  
谷本  
みつ  
光希

## 背景

COPDは慢性閉塞性肺疾患のことで、以前は「肺気腫」や「慢性気管支炎」、「タバコ肺」と呼ばれていた病気です。主にタバコの煙などの有害物質に、肺が長期間暴露する(吸ってしまう)ことから生じます。初期症状は労作時の呼吸困難や慢性の咳で、「咳が止まらない」「階段を登った際や、仕事で体を動かした時に息切れがする」などの訴えで受診をされる患者さんが多いです。

## 病態

ほぼ全ての患者さんが今喫煙をしているか喫煙していた過去がありますが、稀にヘビースモーカーのご家族と長年住んでいて、自身はタバコを吸っていないのに発症する患者さんもいます。タバコの煙に対する過敏性、つまり「どれだけ喫煙をすれば、どれくらいの重症度で発症するのか」は個人の差が大きいため、同じ程度の喫煙本数でも、COPDを生涯発症しない方も、若いうちにCOPDを発症する方もいます。禁煙することで発症の可能性を下げられますが、数十年前に禁煙をされていても、加齢と共にCOPDを発症される方もいます。

COPDの患者さんは画像検査と共に呼吸機能検査が大切となります。また心疾患など、他の病気で似たような症状が出ている場合もあるため、必要に応じて採血検査などを行い、診断を進めています。

## 治療

残念ながら完全な呼吸機能の回復は難しいですが、吸入治療を主体とする適正な治療により、症状の回復が期待できます。治療によって症状が安定し、数カ月

1回の受診で状態が落ち着いている方も多い一方で、COPDを放置してしまうと、重症となり心不全や気胸、肺がんなど他の病気を引き起こす危険性も上がります。重症の場合は、上記治療に加えてリハビリテーションの導入や在宅酸素などが必要となることもあります。

どのような状況でも禁煙が最も効果の高い治療となります。そのため、初めてCOPDと診断を受けた患者さんには、治療内容の説明と共に禁煙指導と喫煙に対する相談を受け付けています。加熱式タバコ(いわゆる電子タバコ)が最近登場しましたが、これに替えてもCOPDを発症しにくくなるとは言えません。1日に吸う本数を減らす、いわゆる減煙もCOPDを良くするとは言えず、早期の禁煙が最適となります。1年に1回であれば、保険診療として「禁煙外来」が利用可能ですので、禁煙に興味はあるものの継続できずに悩んでいる患者さんには、受診を勧めさせていただいています。

## 最後に

タバコの煙を多く浴びる機会があり「治らない咳」や「動いた時の息切れ」を感じている方は、一度専門的な診察を受けることをお勧めします。COPDは既にタバコを辞めていても発症する病気です。早期診断、早期治療により肺機能を守ることで、皆様の健康寿命を延ばすことを使命として、日々の診療を行っています。

